

バリアフリーの遊漁船を目指して

黒木漁業協同組合

三田 健一

1 地域及び漁業の概要

私が所属する黒木漁協は、島根県沖合に位置する隠岐島前の西ノ島にあり、当漁協の主な漁業種類は一本釣、刺網、定置網、採貝藻漁業で、平成12年の漁獲量は201トン、漁獲金額は1億2千万円であった。

2 活動の動機

私は高校進学のため西ノ島を一旦離れたが、将来は長男として家を継ぐことを考えていたため、31歳でこの島に戻りいか釣り漁師になった。

就業するにあたり、9.1トンの春光丸を建造し、イカ釣を中心に生計を立てていたが、平成に入りスルメイカの単価が低迷しはじめ、イカ釣だけでは生活の糧を得ることは難しく、何か船を遊ばせずにできる商売はないのかと考えた末に、遊漁船業との兼業を始めようと考えた。

遊漁船業を本格的にはじめるにあたり、一番必要なことはいかに集客を行うかであり、その当時、注目を浴び始めていたインターネットに注目し、平成8年にはなんとか自力でホームページを開設した。この頃はまだ現在のようにインターネット環境が十分に整備されておらず、苦勞の連続だった。パソコンに対する知識は早くからパソコンを始めている友人達と同じことを何度も聞きながら、すこしづつ習得していくことができた。パソコン等の機器は通信販売を利用し安く入手できたが、インターネットの環境については通信速度は遅い上、接続を市外局にしなければならず都会との格差を痛感した。

ホームページ開設後、あることを考えるようになった。それは、私の妻が網膜色素変成症という難病をかかえた視覚障害者であるがゆえ、色々な障害者の方々と接する機会が多く、あるとき彼らに海の話や釣りのことを話した。とっとうらやましように聞いてくれた。このとき、いかに障害を持つ人が船での釣りを楽しむ機会が少なく、また、受け入れ先が非常にとぼしいかという現状に気がついた。

そこで、私はあらゆる障害を持つ人でも大海原に乗り出し波の音、潮風の匂い、海のすばらしさを味わい、そして、船に乗って釣りをすることがどんなに楽しいか知ってほしいと考え、ホームページにバリアフリーの遊漁船計画を掲示してみた。

この反響は大きく、このときすでに車椅子釣師のためのホームページを開設している方から「お互いにリンクを張りましょう」と提言をうけた。当然、承諾しこのホームページから私のホームページへすぐにリンクできるようになった。そしてついに、はってでも乗ってみたいというほどの熱意がある兵庫県加西市在住の若い車椅子釣師と出会った。彼との出会いがきっかけとなり、多少の借金をしてでも、バリアフリーに対応できる遊漁船業を始めようと決意した。

3 活動状況及び成果**1) 漁船の改造**

視覚、聴覚に障害のある人は、介護者が付き添えば、現在の漁船で船釣を楽しむことができるが、車椅子の方は、現在の漁船では対応が不可能で、バリアフリーに対応できる漁

船改造が必要であった。

まず、車椅子で船釣りを楽しむためには、車椅子でデッキを自由に移動できることが必要であった。私の漁船は、船倉のふたが飛び出しているため 10 センチ以上の段差があり、車椅子では移動ができないため、埋め込み式のフラットなハッチに張り替える作業を行った。これにより、トモでの移動も、トモからオモテへの移動も可能になり、車椅子での船釣りが最大 8 人まで可能になった。

次に車椅子に乗ったまま、岸壁から漁船に乗船できるような設備が必要であった。浮き桟橋のようなものがあれば、短いスロープなどにより乗船が容易になるが、個人では資金的に難しく困難であった。そこで考えたのが、既設のデレッキを改造し、車椅子ごと吊り上げて乗船を可能にすることであった。

既設のデレッキ改造に合わせ、車椅子を昇降させるためのゴンドラ、これを吊り上げるために 300 kg の巻き取り能力のある電動ウインチを取り付けた。これにより、岸壁から漁船への乗船がスムーズになり、今では約 1 分に短縮された。

さらに、トイレをいかに使いやすいうように改造するかであった。車椅子の方が旅に出づらいつ一番の理由に、トイレに対する不安があげられる。車椅子でトイレを利用するためには、車椅子に乗ったまま、トイレに入れなくてはならない。特にトイレは、前述した兵庫県加西市在住の方から様々なアドバイスをいただいた。この方には実際に試乗してもらい「使い勝手がよい」といった感想をいただいた。といっても身長の違いや障害の程度により現在のセッティングがすべての障害者に満足できるものではない。

これらの改造には、既製品に頼ることができず、すべて特注品もしくは転用という方法で対応しなければならなかった。幸いにも町内の上原造船所の社長がこの取り組みに理解を示してくれ、改造の技術的な相談は勿論、支払い面でも随分と融通をきかせてくれた。

2) 現在の操業

遊漁船業をはじめて 6 年近く経過した現在、固定客も付きはじめ、障害者の方からの問い合わせも多くなってきた。この不景気の中、健常者の利用は停滞気味ですが、利用者の一割を占める障害を持った方の利用は、少しずつ増えつつある。

3) 利用者の声

乗船した障害者の方から手紙や電子メールで「とても楽しかった、まさか本物の漁船に乗れるとは思わなかった、是非また来たい」といった感謝の気持ちのこもったお礼を頂きありがたく思っている。また、利用者からは「私の住んでいる近くでこのような漁船があれば・・・」といった声も聞かれた。

そして、健常者の方からは「私は現在、なに不自由なく暮らしていますが、数十年後には歳を取り車椅子の生活をしているかもしれない。その時にはぜひお願いします。」といった声も聞かれた。このことより、バリアフリーの取り組みは障害者だけでなく、高齢者も含めて社会全体の不自由、不便さを取り除く取り組みだと痛感した。

4 波及効果

以上のような取り組みが評価され、NHK の取材をはじめテレビ、雑誌など多くの取材を受けるようになり、昨年の夏には全国版の釣り番組でこの取り組みが放映された。また、他県より視察者が訪れ、全国レベルでこの取り組みが評価されるようになった。

また、今回の漁船改造で総トン数を 10 トン未満に抑えることによりかなり気を使った。つ

まり、10トンを超えると、現在所有している漁業許可が操業区域制限等を受け、操業に支障をきたす可能性が想定された。しかし、この取り組み後、島根県隠岐支庁水産局ではバリアフリーの漁船改造に関しては、漁業許可上に定められているトン数を超えても既存の漁業許可内容で操業できる許可取扱方針とすることを約束してくれた。

現在、当地区ではバリアフリー漁船は1隻のみであるが、今後、同業者が増えれば障害者の方の利用要望に幅広く答えられるだけでなく、同業者同士で様々な情報交換ができ、お客様により良いサービスが提供できると考えている。

5 今後の課題

第1点として、車椅子での漁船の乗り降りについて、現在、既設デレッキの改造で対応しているが、操作性では決して満足がいくものではない。より操作性を向上させる必要があるが、デレッキ等の改造だけでは操作性の限界で、乗船に時間がかかるため、前述した浮き桟橋の設置を強く求める。個人設置は難しいので、機会あるごとに行政に設置の働きかけを行っていきたい。これを設置することにより、漁船や遊漁船だけでなく、観光船や交通船の利用も可能になり、障害者の生活範囲は更に広がると思われる。

第2点として、車椅子用のロッドホルダー、えさ入れ、日傘などの開発である。中には、個人で自分にあったロッドホルダーを別注された方もいるが、非常に高価で現状ではほとんど普及していない。既存のもので対応できるものは対応したいが、新しく開発が必要なものについては、コスト面、販売数量を考えると多くの商品で採算ベースに乗らないと思われるので、行政を中心とした社会全体の協力が必要である。

第3点として、車椅子の方が自ら操船し、船釣りを楽しむことである。車椅子での利用者から「自動車免許は取得できるのに、なぜ、小形船舶免許は取得できないのか」といった声を聞く。やはり、自ら操船し漁場を探し、大物を釣る喜びは何にも代え難く車椅子釣師の究極の目標になると思う。とかく、障害があると、チャレンジ精神が失われがちであり、また、積極的な方が現れても、そのチャンスがないということでは生きがいをつぶしているような気がしてならない。そのため、是非とも小形船舶免許が取得できるシステム作りと車椅子にのったまま操縦できる船の開発を望む。

現在、全国各地でバリアフリーの街づくりが積極的に行われているが、漁村地区ではバリアフリーに対する施設整備はもとより、住民の意識改革さえ遅れている。また、漁村地区では都市部より急速に高齢化が進み、このまま放置すると、数十年後には労働力不足等により漁村の崩壊が起こりかねない。

いずれ私も歳を取り、車椅子の生活を送るかもしれないが、バリアフリー化された環境が整えば、労働意欲もわき、寝たきりになるまで働くことが可能である。このことにより、高齢化した漁業者の労働環境が改善され、持続的な労働力確保につながると思う。

漁村の活性化のためにはUIターン者など若者を漁村に受け入れることも必要だが、同時に現在従事している漁業者の労働力をいかに持続させるかを考えることも必要である。

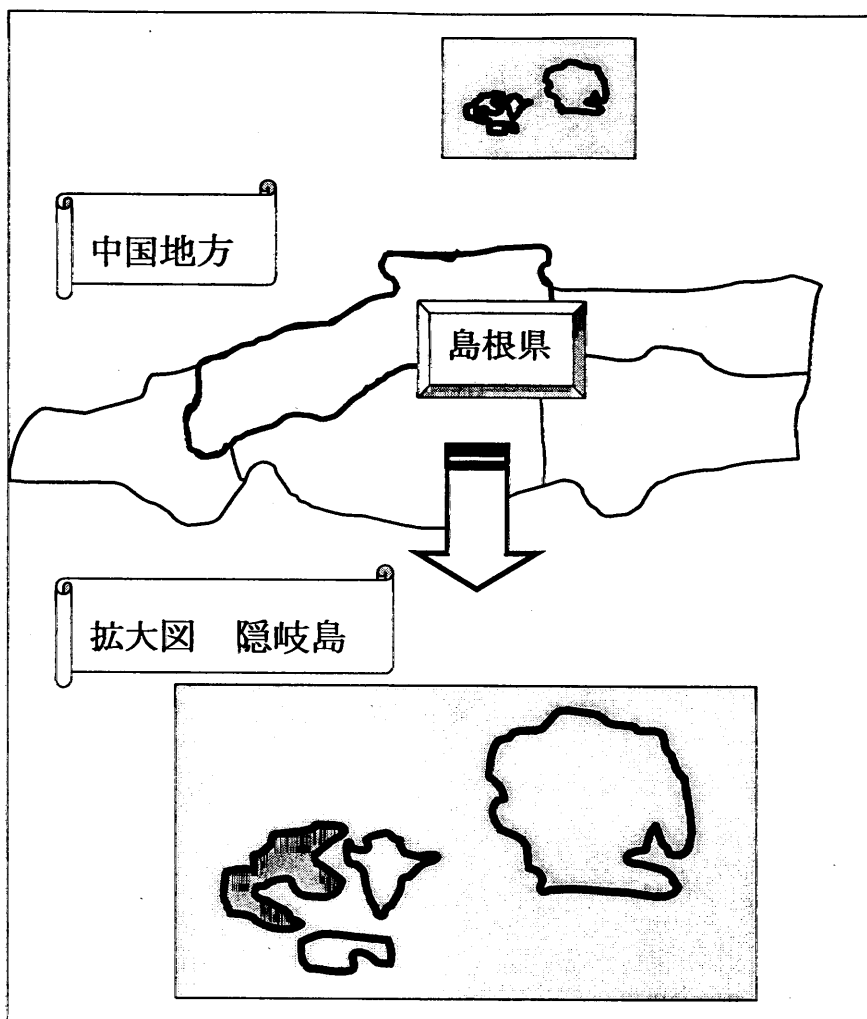


図1 位置図

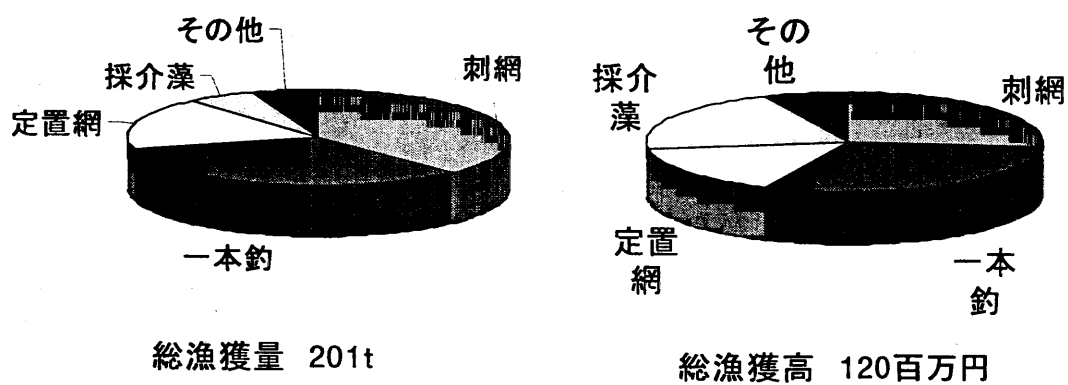


図2 黒木漁協漁獲量・漁獲金額 (H12)

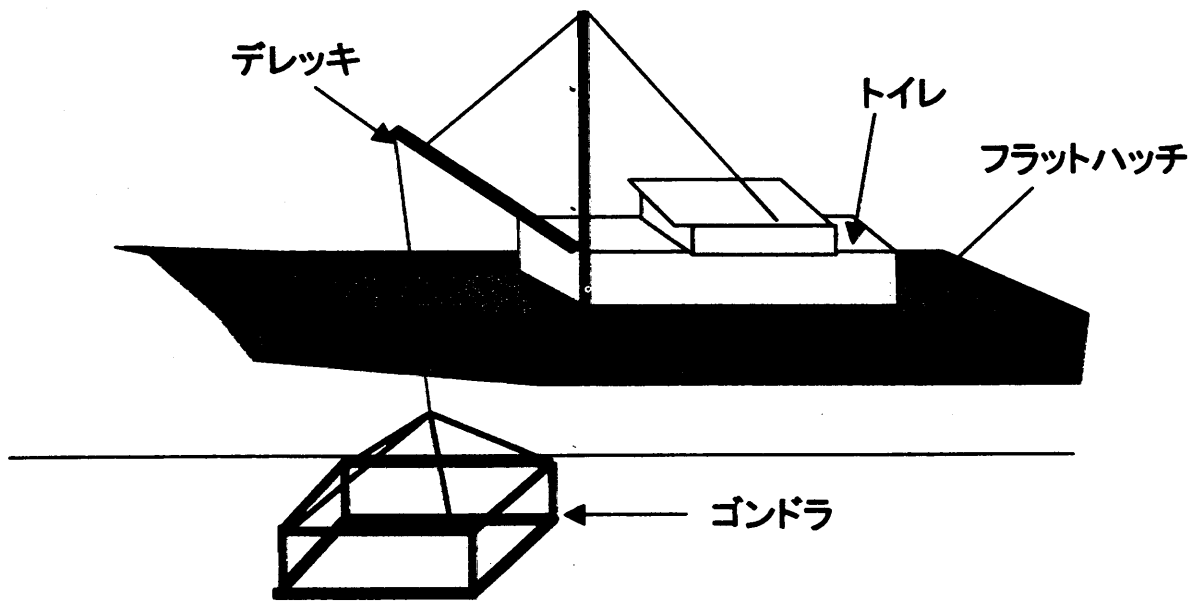


図3 漁船模式図



写真1 乗船風景
(釣れるかな?)

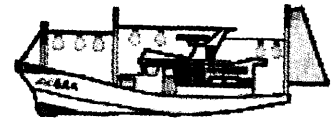


写真1 乗船風景
(釣れたよ!)

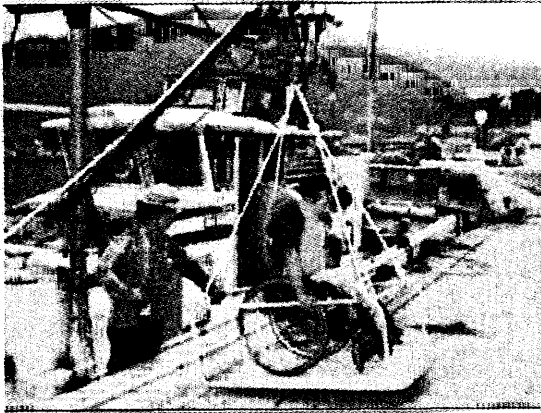


あなたは  番目のお客様です。
 隠岐島の漁模様ほかもろもろは 逃げた魚は皆デカイ (掲示板) へどうぞ

美人女将の見付け島荘がホームページを開設



遊魚のご案内のページへ(季節の魚、釣り方、料金など)



車椅子で外海にでました。写真のように波は荒くないのですが、うねりがありふわりふわりと酔いきげんだったそうです。船の乗り降りは1人1分くらいです。みなさん予想以上に速くて喜んでいました。背筋力を失っていても電動リールでカバーできたようです。次回は大物を釣るんだと意気込んでいました。が、船酔いをなんとかしなくては、...

ようこそ!!いかどんのホームページへ

<http://www1.ocn.ne.jp/~ikadon/>

連絡先

島根県隠岐郡西ノ島町大字別府173-3 電話 08514-7-8070

FAX 08514-7-8524

図4 ホームページ